

文部科学省 共同利用・共同研究システム形成事業 学際領域展開ハブ形成プログラムキックオフシンポジウムを開催

2024年2月27日

2024年2月21日、文部科学省 共同利用・共同研究システム形成事業 学際領域展開ハブ形成プログラムキックオフシンポジウムがホテル金沢に於いて盛大に開催されました。

この画期的なプログラムは、我が国が直面する超高齢社会問題の解決策として、健康寿命の延伸を目指し、異分野間の融合を促進することを目的としています。金沢大学がん進展制御研究所が申請機関となり、東北大学加齢医学研究所、大阪大学微生物病研究所、慶應義塾大学先端生命科学研究所が参画することで、各分野の専門機関が連携し、がん、老化、炎症、代謝といった研究領域を結びつけることで、新たな科学の地平を切り開くことを目的として、令和5年度から始まった事業となります。10年間の長期に渡るプロジェクトの初年度ということで、本事業の今後の飛躍的発展のための土台作りとして、『健康寿命の延伸に向けた集合知プラットフォームの形成』を中心テーマとしたキックオフシンポジウムとなりました。教職員や大学院生、さらには学部生も加えた79人が参加し、それぞれの発表に対して、活発な質疑応答や意見交換が行われ、本プログラムへの大きな期待を感じさせるものでした。

各研究所を代表する研究者7名の方々による講演ということで、『がん細胞とグリア細胞の相互作用』、『乳がんにおけるアミノ酸トランスポーターの役割』、『エピトランスクリプトームを介した加齢生物学の理解』、『細胞老化と腸内細菌の関連』、『造血幹細胞の恒常性維持機構』、『血管性がん微小環境の研究』、『環境ストレス応答と硫黄代謝』に関する最新の研究成果を紹介して頂きました。これらの研究は、がんの進行制御、老化メカニズムの解明、健康寿命の延伸、疾患治療法の開発に貢献する可能性を秘めており、各研究は生命科学の多様な領域にまたがる革新的なアプローチを用いた非常にエキサイティングな内容でした。がんを含む生活習慣病、老化、慢性炎症、代謝異常、遺伝、環境など様々な要因が複雑に絡み合っって規定される『健康寿命科学』は、まさに21世紀を象徴する、領域を超えた連携・ハブ形成による学際領域の開拓が必要な研究分野であることを改めて実感された方も多くいたかと思えます。

今回のシンポジウムは、これまで培ってきた研究所ネットワークをより強固なものにすると共に、健康寿命に大きな影響を与える身体の恒常性維持を理解するための、がんなどの加齢関連疾患や老化現象自体に対する医学生物学的な深い知識を集約した<集合知>のプラットフォームの形成の礎となる貴重な機会となりました。シンポジウムにご参加頂きました皆様、開催にご協力頂きました皆様方に、心より御礼申し上げます。

(文責：城村)

金沢大学がん進展制御研究所 Kanazawa University Cancer Research Institute

文部科学省 共同利用・共同研究システム形成事業
学際領域展開ハブ形成プログラムキックオフシンポジウム

「2024.」
「日時」2.21(水)・22(木)

「会場」ホテル金沢 2階
ダイヤモンドルーム
「(金沢市堀川新町1番1号)」

参加申込サイト
下記のURLからQRコードをスマートフォンへ移動し、事前参加登録を申し込みください。
<https://gakikai-gran.jp/kucr2024/>

「第1部」21日(水) 13:00~17:30
健康寿命の延伸に向けた
集合知プラットフォームの形成

「第2部」22日(木) 9:30~12:20
共同利用・共同研究拠点
研究成果報告会

●発表者

- 中村 慎一 (金沢大学 理事 (研究・社会共創・大学数支援担当)、副学長)
- 坂野 直樹 (京都産業大学)
- 廣瀬 豊 (富山大学)
- 佐々木 宗一郎 (富山大学)
- 大澤 毅 (東京大学)
- 徳田 深作 (京都府立医科大学)
- 青木 俊介 (九州工業大学)

●発表者

- 平田 英周 (金沢大学がん進展制御研究所)
- 田所 優子 (金沢大学がん進展制御研究所)
- 本橋 はづみ (東北大学加齢医学研究所)
- 魏 范研 (東北大学加齢医学研究所)
- 村松 史雄 (大阪大学微生物病研究所)
- 河本 新平 (大阪大学微生物病研究所)
- 齊藤 康弘 (慶應義塾大学先端生命科学研究所)

●発表者

- Thumkee Dean (京都大学)
- 坂野 直樹 (京都産業大学)
- 廣瀬 豊 (富山大学)
- 佐々木 宗一郎 (富山大学)
- 大澤 毅 (東京大学)
- 徳田 深作 (京都府立医科大学)
- 青木 俊介 (九州工業大学)

主催
金沢大学がん進展制御研究所、東北大学加齢医学研究所、
大阪大学微生物病研究所、慶應義塾大学先端生命科学研究所

共催
金沢国際がん生物学研究会
金沢大学新学術創成研究機構、ナノ生命科学研究所



中村慎一理事のご挨拶



鈴木健之所長による事業概要説明



金沢大学がん進展制御研究所
平田 英周 准教授



慶應義塾大学先端生命科学研究所
齊藤 康弘 特任准教授



東北大学加齢医学研究所
魏 范研 教授



大阪大学微生物病研究所
河本 新平 准教授



金沢大学がん進展制御研究所
田所 優子 助教



大阪大学微生物病研究所
村松 史隆 助教



東北大学加齢医学研究所
本橋 ほづみ 教授

**Kickoff Symposium for
the "MEXT Promotion of Development of a Joint Usage/Research System
Project: Coalition of Universities for Research Excellence Program (CURE)"**

On February 21, 2024, the Kickoff Symposium for the "MEXT Promotion of Development of a Joint Usage/Research System Project: Coalition of Universities for Research Excellence Program (CURE)" was held grandly at Hotel Kanazawa.

This innovative program seeks to extend healthy life expectancy and promote the integration of different fields to address the problem of the super-aging society facing our country. The goal of this project, which started in 2023 and involves the Cancer Research Institute, Kanazawa University as the applicant, along with the Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University, the Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University, and the Institute for Advanced Biosciences, Keio University, is to link research fields such as aging, cancer, inflammation, and metabolism to expand scientific horizons. As the first year of the 10-year long-term project, the kickoff symposium was organized with the main theme of "Formation of a Collective Intelligence Platform for Extending Healthy Life Expectancy" as the cornerstone for the project's future rapid expansion. The 79 participants, including faculty members, graduate students, and even undergraduate students, engaged in a lively Q&A session and exchange of opinions on each presentation, showing great expectations for this program.

Seven leading researchers from each institute introduced the latest research results on "Interactions between cancer cells and glial cells," "Role of amino acid transporters in breast cancer," "Aging biology through epitranscriptome," "Relationship between cell aging and intestinal bacteria," "Homeostatic mechanisms of hematopoietic stem cells," "Vascular cancer microenvironment," and "Environmental stress response and sulfur metabolism." These studies have the potential to contribute to the control of cancer progression, elucidation of aging mechanisms, extension of healthy life expectancy, and development of disease treatments, and each was very exciting, using innovative approaches across diverse areas of life sciences. Many participants may have realized once again that "Healthy Life Span Science," which is defined by a complex interplay of various factors such as lifestyle-related diseases including cancer, aging, chronic inflammation, metabolic abnormalities, genetics, and the environment, is a research field that symbolizes the 21st century and requires the development of interdisciplinary fields through cross-disciplinary collaboration and hub formation.

This symposium provided a valuable opportunity to strengthen the network of research institutes that have been cultivated to date and to form a platform of "Collective Intelligence" that brings together in-depth medical and biological knowledge on aging-related diseases such as cancer and the aging phenomenon itself to understand the maintenance of homeostasis in the body, which has a significant impact on healthy life expectancy. We would like to express our sincere appreciation to all the participants and those who helped organize the symposium.

(Writer: JOHMURA Y., February 27, 2024)

金沢大学がん進展制御研究所 Kanazawa University
 Cancer Research Institute Kanazawa

文部科学省 共同利用・共同研究システム形成事業
 学際領域展開ハブ形成プログラムキックオフイベント

日時 2024. 2.21(水)・22(木)

会場 ホテル金沢 2階
 ダイヤモンドルーム
 (金沢市堀川新町1番1号)

参加申込サイト <https://gakai-gran.jp/kucr2024/>

【第1部】21日(水) 13:00~17:30
**健康寿命の延伸に向けた
 集合知プラットフォームの形成**

●発表者
 → 中村 慎一 (金沢大学 理事 (研究・社会共創・大学院支援担当)・専学長)
 → 鈴木 健之 (金沢大学がん進展制御研究所 所長)

●発表者
 → 平田 英周 (金沢大学がん進展制御研究所)
 → 田所 優子 (金沢大学がん進展制御研究所)
 → 本橋 ほづみ (東北大学加齢医学研究所)
 → 魏 花研 (東北大学加齢医学研究所)
 → 村松 史隆 (大阪大学癌生物病研究所)
 → 河本 新平 (大阪大学癌生物病研究所)
 → 菅 康弘 (慶應義塾大学先端生命科学研究所)

【第2部】22日(木) 9:30~12:20
**共同利用・共同研究拠点
 研究成果報告会**

●発表者
 → Thumkeo Dean (京都大学)
 → 坂野 直樹 (京都産業大学)
 → 廣瀬 豊 (富山大学)
 → 佐々木 宗一郎 (富山大学)
 → 大澤 毅 (東京大学)
 → 徳田 深作 (京都府立医科大学)
 → 青木 俊介 (九州工業大学)

●発表者
 → 鈴木 健之 (金沢大学がん進展制御研究所 所長)

主催
 金沢大学がん進展制御研究所、東北大学加齢医学研究所
 大阪大学癌生物病研究所、慶應義塾大学先端生命科学研究所

共催
 金沢国際がん生物学研究会
 金沢大学新学術創成研究機構、がん生命科学研究所

お問い合わせ
 医薬保健系専務部薬学・がん研支援助研究協力係
 E-mail: kyoten@adm.kanazawa-u.ac.jp
 URL: <http://ganken.ci.kanazawa-u.ac.jp/>



Opening remarks by NAKAMURA Shin-ichi, Trustee



Explanation of Project Outline
 by SUZUKI Takeshi, Director General



HIRATA Eishu, Associate Professor
 Kanazawa University



SAITO Yasuhiro, Associate Professor
 Keio University



WEI Fan-Yan, Professor
 Tohoku University



KAWAMOTO Shinpei, Associate Professor
 Osaka University



TADOKORO Yuko, Assistant Professor
Kanazawa University



MURAMATSU Fumitaka, Assistant Professor
Osaka University



MOTOHASHI Hozumi, Professor
Tohoku University